



### ホタル幼虫 児童と放流会

宇都宮市の富屋  
西部ホタル愛護会

【栃木・うつのみや】

宇都宮市徳次郎町の富屋西部ホタル愛護会主催の「ホタル幼虫放流会」が19日、同町の西根ホタル保全地で行われ、富屋小学校2、3年生79人が参加した。同会は農村環境の保全に取り組み、ホタルの里づくりを通して同小の総合学習にも協力する。放流会は10年目になる。

ゲンジボタルの幼虫約100匹、ヘイケボタルの幼虫約50匹を用意。児童は紙コップに入ったホタルを受け取り、「元気に育ってね」と、そっと水路に放流した。

ホタルの人工飼育に取り組む同会の池田一美さん(71)は「昨年は40、50匹以上のホタルが保全地を飛行した。幼虫の餌となるカワニナが発生するようにもなった」と話している。

ゲンジボタルの幼虫はカワニナしか食べず、餌の確保や飼育管理が難しい。児童は幼虫の飼育を通して、身近な自然の保護・管理を毎年学んでいる。

保全地の水路にホタルを放流する富屋小児童